

子どもと育つ

二〇一二年度から、中学校の体育の授業で武道とダンスが必修となる。新学習指導要領に盛り込まれたからだ。教える教員たちには初心者も多い。自主的に練習に励む教員も出てきたが、指導力確保などに課題もある。

(安食美智子)

「二人でリズムを確認しながらやりましょう。足元は見えないで」

東京都中央区で十二日に開かれた「日本ボールルームダンス連盟」(同区)主催の講習会。約六十人の教員たちがカップルになり、社交ダンスのひとつ、ボールルームダンスのステップを懸命に覚えていた。講習

会は教員免許更新講習も兼ね、四日間行われた。

葛飾区立小松中学校の保健体育教員・森田真智子さんは「どんなダンスも教えられるように」とやる気十分だ。千葉県市川市立第五中学校でダンスの研究授業を行う大久保庸子さんと岡田寛さんは「すぐに生かせる技術を教えてくれる」と

安全面、指導力確保に課題

満足そつだった。

武道・ダンスの必修化は、学習指導要領の改訂で二一年度から実施される。中学一、二年生の男女を対象に、武道は柔道、剣道、相撲などから一種目を、ダンスは創作ダンス、フォークダンス、ヒップホップなどの現代的なリズムのダンスのいずれかを選ぶ。

ダンスは初心者が多い。同講習会でもステップに四苦八苦の男性受講生もいた。同連盟も「特に男性教員のダンス未経験者が多いのが課題」と教員の指導力習得の必要性を指摘する。

同調査では、〇九年度の共学クラス(一年生)のダンス実施計画は、指導が簡単な「フォークダンス」が

備なども課題だ。文部科学省によると、全国で専用の武道場を備える公立中学校は47%(〇九年)にとどまる。

双方とも技術や知識の習得には時間がかかる。だが、順天堂大学の中村恭子准教授(舞踊教育)が都内の公立中学校を対象にした調査(〇九年)では、必修化に向け準備する教員は多忙などを理由に三割に満たなかった。

同調査では、〇九年度の共学クラス(一年生)のダンス実施計画は、指導が簡単な「フォークダンス」が

武道・ダンス先生、猛勉強中!!

く、次いで生徒に人気の「現代的なリズムのダンス」が36・7%、高い指導力が必要な「創作ダンス」は28・6%だった。

中村准教授は「教員の自信のなさが反映されている」と指摘。「本来、他教科との連動や自分で作り上げ、探求する学習が望ましい。だが学習指導要領が狙う自由な動きの創出ではなく、映像を見せ既成の踊りを模倣させるだけとなる恐れがあり、学習の質確保に大きな懸念がある」と話す。

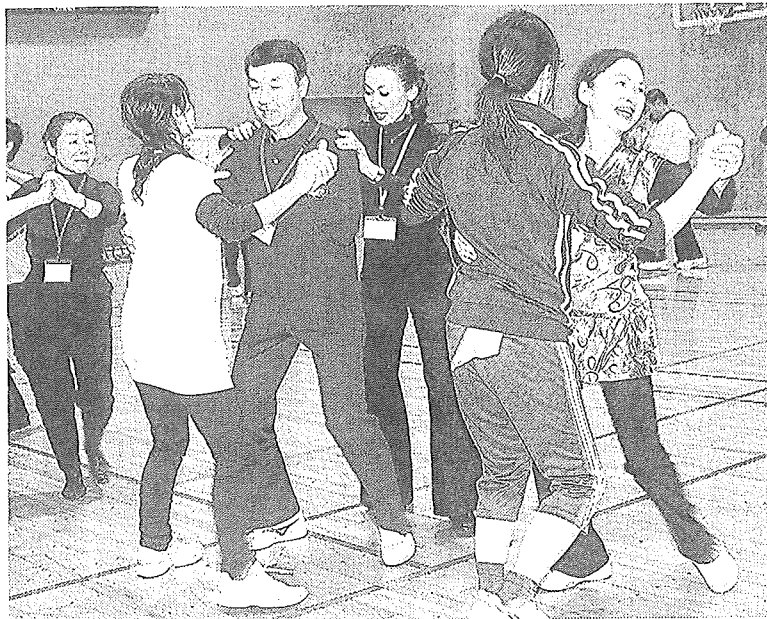
指導力が必要なのは武道も同じだ。十数年前から柔道を必修にするお茶の水女子大学付属中学校(文京区)では、担当教員の研修に気を配っている。同校では毎春秋に十二時限を充てる。担当する女性教員の宮本乙女さんも柔道は未経験だった。「柔道の指導経験がないと、技を教え込むのは難しい」と実際に男性教員の柔道の授業を受けて経験を積んだ。

柔道の講習会も、各地の教育委員会などが主催して開かれている。最低でも基本技や受け身、安全確保などの技術を身に付ける必要がある。

武道では安全面の確保や道具・武道場などの環境整

備など実のある授業にはならない」と語る。

再来年度から中学必修化



ボールルームダンス講習で講師の指導を受ける教員ら(東京都中央区)